

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(例)

【学 年】 小学校第5学年

【題材名】 学級活動(2)ウ 「地震に備えて」 (2時間扱い)

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
日常の生活と健康・安全といった自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに, そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。	自己の生活上の課題に気付き, 多様な意見を基に, 自ら解決方法を意思決定することができるようにする。

【主な学習活動と留意点】

前題材からのつながり: 前回の避難訓練や前年度の引き渡し訓練やニュース等の映像を有効活用して, 本題材を設定する。

働かせる見方・考え方: 自己の問題を捉え, 自己の実現に向けた実践に結び付けること。

段階	学習活動(時間)	留意点
つかむ	<b>問題の発見・確認(0.2)</b> 地震が起こったとき, 起こる前にどんな行動をとることが大切か	<b>自己の生活を振り返り, 解決すべき課題を意識化する場面</b> ☞地震が起きたとき, どんな行動をとったか想起する。 ・避難(引き渡し)訓練のとき, どのように行動したか思い返す。
<b>題材: 「通学途中や下校途中に地震が起きたら, どのようにして身を守ったらよいのだろうか？」</b>		
探る  見付ける  決める	<b>原因の追求(0.3)</b> ・校区内の危険箇所を考える  <b>解決方法の話合い(0.5)</b> ・場所よっての安全対策 ・一人の場合の安全対策 ・大人が近くにいるとき  <b>自己の意思決定(0.2)</b> ・学校生活で意識すること ・通学路で気をつけること	<b>身を守る方法を分類・整理し, よりよい解決方法を探る場面</b> ☞付箋を活用して, 地震が起きた場合に身を守る方法を分類・整理しながら, 小グループで解決方法を話し合う。 ・話合いのグループを生活経験等から意図的に編成する。 ・児童が主体的に問題解決の方法や対処の仕方を考えられるよう, 必要な情報を提供する。 ☞危険回避の方法は複数あることを知る。状況把握を的確に行えるよう, 日頃からの学校生活の改善につながる具体的な実践方法を意思決定できるように促す。
実践する	<b>決めたことの実践(0.8)</b> (避難訓練・引き渡し訓練)  <b>振り返り(帰りの会等)</b>	<b>実践(訓練) → 振り返り</b> ☞避難訓練や引き渡し訓練を「自己評価カード」で振り返り, 日常生活の改善に生かす。 ・学年便り等を用いて, 訓練の様子や家庭での協力に対するお願い等を伝える。

他教科へのつながり: 社会科 「情報産業と私たちの暮らし」へつなげる。

次題材へのつながり: 学級活動2(ウ) 「地震や火災の時の命の守り方」へつなげる。